

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

12月1日 (No.40・風邪にご注意を号)

2005
*
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：天田 眞

勝手にレッドデータ of 志木 (26)

昔の地名

志木で本町や柏町などの町名が使われるようになったのは、足立町から志木市となった後で、もう30年以上たっていますが、街の中では今でも昔の地名が使われています。その多くは昔の小字名が元になったもので、町内会、公園、バス停などの名前に残っています。本町でありながら上町や東町など、わかりづらいものもありますが、歴史を背負った地名は残していきたいものです。(昔の地名については志木市発行「郷土の地名」に詳しい) (天田 眞)

9/10
(土)

こどもとおとなの自然塾（05年度第4回）

秋の夜に虫の声をきこうかい

こどもとおとなの自然塾「秋の夜に虫の声をきこうかい」が9月10日（土）に開催されました。

午後5時に柳瀬川サミット前に集まったのは、



総勢49名（うち子供20名）でした。

教育サービスセンター柿崎所長の挨拶の後、早速虫取り網を持って、サミット裏の川原で虫を探しました。

エンマコオロギやツツレサセコオロギは鳴き声はするのですが、捕まえられませんでした。それでも、ミツカドコオロギやクビキリギス、ショウリョウバッタ等をみんなで捕まえました。捕まえた虫を昆虫図鑑で調べた後、逃がしてやりました。また、虫の声をCDラジカセで聞いて、何の虫の声を理解しました。

すっかり暗くなってから、公園の方へ行きましたが、アオマツムシの鳴き声がすごくて、他の虫の声はほとんど聞き分ける事が出来ませんでした。（山崎光久）

9/18
(日)

柳瀬川・野鳥ウォッチング&水族館

ミズガキ復活??

柳瀬川・川あそび

9月の柳瀬川・水族館では、現在日本国内で絶滅危惧種である水辺で遊ぶ子どもたち「ミズガキ（川ガキ）」を復活するための試みのひとつとして、川流れやカヌーを取り入れてみました。

子どもはとても楽しんでいました。川流れなんかは、普段勝手にやると怒られることですね（笑）

今後は、こうした取組むを徐々に増やしていければと思います。（伊藤 智明）

【主催】（財）埼玉県生態系保護協会志木支部
NPO法人エコシティ志木

【協力】黒目川に親しむ会

【捕れた水生生物たち】・ボラ・コイ・ギンブナ・マハゼ・ウキゴリ・ヌマチチブ・モツゴ・グッピー・メダカ・タモロコ・タイリクバラタナゴ・ウナギ・モクズガニ・テナガエビ・ヌカエビ・スジエビ・アメリカザリガニ・ハグロトンボのヤゴ ★ミズガキ（川ガキ）4名<絶滅危惧種>

お魚捕りをした後、お魚の種類を勉強しました。終了後、アメリカザリガニ・グッピー等を欲しい人が持ち帰り、残りは川へ戻しました。



川流れ体験中



モクズガニ

柳瀬川水族館

10/1 10/2
(土) (日)

志木市ふれあい祭り

ゴミ分別ゲーム・屋上ビオトープ見学会

10月1・2日に志木市ふれあい祭りがいろは遊学館で行われました。その中で、ゴミとエネルギー部会ではいろいろな種類のゴミと実際のごみ収集箱を置き、ゴミ分別ゲームをしました。子どもたちは真剣にゲームに参加し、なかなか帰らない子どもいたほどです。エライゾ！！私たちが日々出しているゴミについて、親子で意識するきっかけを少しでも提供できたのではないのでしょうか。また、分別に関して日頃疑問に思っていることをお聞きしたり、公園で拾っ

たダンゴリを飾ったり、ペットボトルで作ったダンゴリ落としのおもちゃなどで遊んでもらいました。

また、エコシティ志木では、いろはふれあい祭運営委員会から小学校屋上ビオトープ見学会の説明役の依頼があり、実施しました。

11時からの一回目は97名、1時からの二回目は19名の参加があり、関心の高さを窺わせました。

平成15年3月の竣工から2年半が経過しま

したが、その間鳥や風によって種子が運ばれ、

狭い空間に約87種類の植物が観察されています。池にはメダカが泳ぎ、ミゾソバの可憐な花が満開で、素敵な自然を作っていました。



ゴミ分別ゲーム



志木小屋上ビオトープ見学会

9/25
(日)

お宝発見ツアー（第10回…だと思ふ）「柳瀬川上流の北川を訪ねて」

飲んでえなカップの里を訪ねて

柳瀬川上流の北川という川に飲んでえなカップ達が多くいると聞いて、総勢8名で訪ねていくことに。電車やバスを乗り継ぐこと約1時間、西武遊園地駅に着くとさっそく2匹のカップが出迎えてくれました。一見、我々人間と同じように見えます。

「我々は、北川カップの会のメンバーで、北川の清流復活を目指しています！！」。

堤防の補強工事が進む多摩湖、狭山公園、北川源流にあるたっちゃん池や湧水、丘陵地の斜面林、北山公園とそこに隣接する八国山（トトロの森で有名な！）などを詳しい解説とともに案内してもらいました。結構歩きましたよ。

北山公園を流れる北川では、10年に及ぶ運動が実って、ついに2004年春、切り立ったコ

ンクリート護岸だった場所が緑のスロープに変わりました。恐るべしカップパワー。

見学を終えて夕闇迫る頃、北川カップの会の頭目が経営する「MARU」というお店に行きました。ここには飲んでえなカップが大挙集まってくるそうです。というか、夜も更けてくるうち、我々も

すっかり飲んでえなカップに変身していました。恐るべしカップパワー。

（毛利将範）



10/16
(日)

志木市健康まつりに出展〈志木市立市民総合センター〉
魚は人々の心を元気にしてくれるぞ

「志木市健康まつり」に柳瀬川・出前水族館を出展しました。なぜなのかというと、「魚の



棲みやすいまちは、人間にとっても健康的なまち」とチョット強引に健康とお魚をコジツケで(笑)

いつもと違った老若男女のお客様が訪れて関心を持ってもらい、異業種交流も大切だとツクツク感じました。

ちなみに、今日の目玉は「ミズカマキリ」で、柳瀬川で私たちのグループで捕れたのは始めてでした。(伊藤 智明)

【展示した水生生物】・ニゴイ・ギンブナ・ボラ・オイカワ・ヌマチチブ・ウキゴリ・ヌカエビ・テナガエビ・ミズカマキリ



志木いろは市民大学に講師を派遣しました
柳瀬川を楽しむ(初級編)

身近な川「柳瀬川」を知ることによって、自分たちの住んでいるまちの成り立ちや現状を再認識する、という趣旨で開講された「柳瀬川を楽しむ(初級編)」が以下のように行われ、当会のメンバーも講師として参加しました。

■第1回 7月10日(日)

「柳瀬川の成り立ちを知る」

「となりのトトロ」に描かれた風景の意味は？
講師＝正田浩司さん(県立所沢高校教諭)

■第2回 9月11日(日)

「フィールドワーク 柳瀬川の野草観察」

実際にフィールドに出て柳瀬川の自然を実感しました。講師＝田村キミエさん／天田眞さん(エコシティ志木)

■第3回 10月9日(日)

「柳瀬川の自然から志木が見える」

柳瀬川の鳥や魚たちから、意外に豊かな志木の自然を知る。講師＝毛利将範さん／山崎光久さん／小島敏文さん(エコシティ志木)

■第4回 11月13日(日)

「柳瀬川と人との関わり 今・昔」

柳瀬川に関わる行政・市民グループ・個人や、柳瀬川の未来について考えました。講師＝宮本善和さん(柳瀬川流域ネットワーク世話人代表)



△第2回「柳瀬川の野草観察」のようす

富士見橋を中心に、土手、田んぼ、川原の野草を観察しました。「柳瀬川の川原にあるのは湿った場所を好むオギ。ススキではありませんよ」などなど… 受講生のみなさんは田村さんから野草お得情報をいっぱい仕入れました。

11/3
(木)

川越・不老川 「魚類調査」

主催：不老川流域川づくり市民の会／新河岸川水系水環境連絡会 魚類調査チーム



入間市・所沢市・狭山市・川越市といった首都圏のベットタウンを流れる「不老川」は、過去に全国水質ワースト1の「汚い川」の時もあり、生活排水等の影響による水質汚濁で有名な川です。そのため、不老川流域の自治体は「生活排水対策重点地域」に指定されています。

また、段差の激しい川のため、下流から魚が昇って来れないため、魚の行き来がなく、水生生物の種類の少ない川です。最近では、水質も徐々に改善されつつあり、段差を少なくする

河川工事も行われてきています。

そんな「不老川」が今どうなっているか、「不老川流域川づくり市民の会」と「新河岸川水系水環境連絡会 魚類調査チーム」で、水中搜索してきました。

以前はドジョウしか捕れなかったようなので、今回はドジョウのほか、ギンブナ・モツゴ（クチボソ）・タモロコ・ヤゴなど、種類が増えたことは、改善に向けての一定の成果が上げられたと思います。

また、久保川合流点より上流部の不老橋付近の調査も行いました。このあたりは、川幅も狭く懐かしさを漂わせる橋が架っていて、のどかな里川の雰囲気でした。

しかし、下流部に段差があり魚が昇って来れないことや、瀬切れが起きてしまうことなどから、乾燥に強いドジョウやザリガニぐらいしか捕れませんでした。（伊藤 智明）

11/13
(日)

黒目川・秋の川まつり2005

主催：埼玉県朝霞県土整備事務所

埼玉県朝霞県土整備事務所で開催した「黒目川・秋の川まつり2005」に行ってきました。今までは行政だけでやっていたイベントでしたが、今年は環境や川づくりに関わる市民団体も一緒になって盛り上げようという試みでした。

「黒目川・水族館」は大好評でした。この時期にアユが捕れるのには驚きました。身近な新河岸川流域にアユが棲んでいることを知らない人も多かったです。川の土手を歩いて、コイぐらいしか観えないから、川の中にどんな生き物が棲んでいるかなんて知る機会なんて、めったにないですからね（笑）

また、（財）埼玉県生態系保護協会 ふじみ野支部（旧・上福岡支部）の野沢支部長が提供してくださった自然写真の数々は、かなりのお宝画像が満載でした。これを観ただけでも、川まつりに来た人はラッキーだったと思います。

来年度以降も、行政と市民団体と協働でこう

したイベントを盛り上げていき、多くの人々に身近な川に関心を持つきっかけとなるような活動が続けられればと思います。（伊藤 智明）



【協力】・新河岸川水系水環境連絡会・黒目川に親しむ会・和光自然環境を守る会・NPO法人エコシティ志木・（財）埼玉県生態系保護協会 ふじみ野支部・（財）埼玉県生態系保護協会 朝霞支部・埼玉県立いずみ高校 釣り愛好会・埼玉県建設業協会朝霞支部・朝霞市 ほか

宗岡地区

「水塚」



中宗岡の水塚

●水防施設「水塚」

「土盛りの土は、畑の土の30cmほど下のクロマサという黒い硬い土を掘ってモッコに入れて担ぎ上げた聞いた」「この高さに積むには並大抵のことではなかったはず。先祖が苦労して築いたものだから壊せない」

2004年夏、宗岡地区（上宗岡・中宗岡・下宗岡）の「水塚」を調査した際に水塚がある農家の方から伺った話です。

水塚とは、屋敷内の一部に宅地よりも1mほど高く土盛りをして、その上に倉などの建物を設けたもので、水害時に避難し、しばらく生活できるようになっている、いわば水防施設です。

宗岡地区は荒川と新河岸川に挟まれた低地であるために、以前はしばしば洪水にみまわれてきました。その防備策として江戸時代初期頃から水塚が築かれはじめたと考えられており、江戸末期から明治、大正時代のものが今でも55基（04年8月）現存しています。

志木以外では、荒川流域の川島町、富士見市南畑、朝霞市内間木など、また、木曽川下流や利根川中流などでも見ることができます。

●洪水への備え

土盛りの上に建てられた倉には、洪水に備えて1階に米、味噌、醤油などを蓄蔵し、中2階では水が引くまで避難生活を送れるようになっていました。

また、浸水時に備えて長さ3間（5.4m）ほどの舟を備えていた家も多く、今でも、物置や納屋の天井や底につるしてあるお宅がありました。木を切ったり、天井を破って脱出するために、のこぎりやなたを常備したり、排水と防火用水としての役目ももっていた「構え堀」が屋敷の北側に残る家も一部に見られました。

さらに、この地域には、江戸時代に造られた宗岡地区全体を囲む堤防（輪中堤、総囲堤などと言う）が今でもほぼ昔の原型を保って残されています（佃堤など）。

このように「荒ぶる川」の恐ろしい洪水に対する様々な備えをすることによって、宗岡の人々は川の氾濫が運ぶ肥えた土を利用して農作物の収穫をし、

普段の豊かで楽しい暮らしを守り、「母なる川」の恵みを最大限活かしながら暮らしてきたと言えます。この川と共に暮らすための一連のシステムを象徴するのが水塚であると考えられます。

●忘れられつつある水塚

このような役目を持つ水塚が今忘れ去られようとしています。

水塚は普段、単に「クラ」「土蔵」「物置」、または用途に応じて「味噌部屋」「文庫倉」などと呼ばれています。そのためか、水塚のある家の住人であっても「水塚」という言葉が通じないこともありました。近代治水の成果で水害の心配がほとんど無くなった現在では、水塚の存在意義も用途も、建てられた時代に比べて変化して、水塚という言葉がすでに死語になりつつあるようです。

志木に、しかも宗岡地区に長く住んでいる人でも意外と知らない方が多い「水塚」、それは、水と人との激しい共存の知恵を結集した、志木市の貴重な文化財です。（毛利将範）

参考文献：『水害と志木』1986 志木市
「荒川下流域水塚群の研究—人と水との共生の文化を考える—」2004 毛利
調査協力：安齋達雄氏（郷土史家）



水塚の構造概念図



水塚分布(●印) 図と現存する堤防

●会員紹介

わかお あきこ

若尾 明子さん

(新座市在住)



若尾さんは、2000年3月に受講した「介護保険サポーターズクラブ」の研修講座をきっかけに、エコシティ志木のメンバーと出会い、地元「地域のことを自分たちで考える」という活動をしている人の存在を知ったそうです。それまでは、埼玉都民だったので、家と会社との往復で、地元の話をする機会なかったとのこと。

その後、若尾さんは会社を辞めて、「さいたまNPOセンター」というNPOに就職し、福祉のまちづくりに関心をもちはじめました。エコシティ志木とは、介護保険利用者調査や、「私らの気持ち」の調査活動のお手伝い、地域福祉計画の学習会の企画など、協力して活動してきました。これらを通して、保健福祉部会の活動に参加してみたいと考えて、「エコシティ志木」に入会することになりました。

ふだんは、「NPO法人市民活動情報

センター・ハンズオン！埼玉（www.hands-on-s.org）」という団体で、市民参加型のまちづくりをテーマにしたコミュニティシンクタンクを目指して活動しています。「ハンズオン（HANDS ON）」とは、博物館などで、来館者自身が、見て・触って・からだ全体を使って、楽しみながら学ぶというスタイルのことをいうそうです。

今年11月には、志木のお宝マップづくりにも参加します。保健・福祉部会として、「地域福祉プロデューサー養成講座」を、若尾さんの参加も得ながら、企画していきたいと考えています。若者パワーに期待！！

【紹介者：加藤智康】



志木まると博物館「河童のつづら」 次の目標はマップづくり？



第3回目となる、今年のお宝交流シンポジウム（11月27日(日)）のメインテーマは「みんなでつくろう！！志木のお宝マップ」です。

これまで取り組んできた、「河童のつづら」の活動を中心に、お宝に囲まれてくらす楽しみをもっと多くの人と共有したり、次世代に引き継ぐツールとなるようなマップが

つくれたらと思います。

また、今回のシンポジウムがきっかけとなり、若尾さんが言うように「これからのマップづくりを通して「楽しい時間を過ごすことができた！」と楽しめれば最高です！！

みなさんの知恵とパワーを持ち寄りましょう。
(毛利将範)

ネットワーク 紹介

志木小エコクラブ

志木市は、典型的なベッドタウンの本町地区と昔からの水田風景が残る宗岡地区に大きく分かれる。

私達志木小は、前者の本町地区の中心に位置し子ども達の遊び場は人工物に囲まれた町の中である。そのため、現代っ子らしく地球温暖化やオゾン層の破壊については知っているが、この志木のどこに行けばどんな虫がいるのか、いつどんな鳥が来るのかといったことはほとんどの子が知らないままだった。そういった環境の中で、「自然を大切に」という意識を育てるのはなかなか難しい。

この本を手になされている方はご存じかと思うが、志木は江戸時代に新河岸川と柳瀬川との合流点に置かれた舟運の引又河岸によって栄えた、川あつての土地である。だから一学期は、クラブの子ども達を近くの柳瀬川に連れて行き遊ばせた。前号のこの欄にも書いていたが、やはり子ども達は、川遊びが大好きなようだ。そして、この実体験の中で、鮭の子のように川の匂いや温度を感じてくれたと思う。

ただ、このような自然の中に子ども達を連れ出すことは、一人の教師だけでは実現不可能だったし、効果も半減だったろう。安全面、そして道すがらの小さな雑草やツバメの営巣場所へ子ども達の目を向けてくださったと言う点で、エコシティ志木の天田先生始め多くのアドバイザーの方々の存在があつてこそその活動だったといえる。

特に、転勤族の私達教員だけでは、「柳瀬川のどの地点でどんな魚がいるのか」とか「この植物は、なんという名前なのか」といった情報は伝え切れない。子ども達にとって“ふるさとの先輩”であるアドバイザーの方だからこそ、伝えられる魅力がある。動植物に関してはもう“歩く図鑑”と言ってもいいくらいだ。それま



で、子どもも私も一括りに“雑草”と見過ごしていた草花一つ一つに名前があることを知った。しかも、ヘクソカズラ（屁糞葛＝確かに臭い）やイヌノフグリ（漢字で書くと「犬の陰囊」＝果実の形が…）など子どもが興味を示す名前が川原には沢山溢れている。

この五感をフルに使った生の経験と記憶があれば、いつか大人になり柳瀬川の上を通った時、ちょっとした川の変化にも気が付いたり、自分達がしてもらったように今度は自分達の子どもの志木の自然の魅力を伝えていってくれるのではないかと思う。また、ふるさとの自然をそしてもっと大きな規模での環境を大切にできる大人に育てられることと期待を寄せている。

（志木小教諭 乙川 竜太）



● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email : qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info-2.html>

←ジャコウアゲハ(9・11 平澤)

《鳥類》

- ◆コガモ(1) →9/14(水) 今シーズン初、柳瀬川【武藤邦昭】
- ◆チョウゲンボウ(1) →9/19(月) 水谷田んぼ【山崎光久】
- ◆タシギ(1) →10/2(日) 今シーズン初、柳瀬川の中州で【武藤邦昭】
- ◆コゲラ(2) →10/22(土) 本町の公園、巣穴が2つ【毛利将範】
- ◆ヒドリガモ(2) マガモ(7) ハシビロガモ(1) →10/27(木) 何れも今シーズン初、柳瀬川【武藤邦昭】
- ◆ノスリ(1) →11/20(日) 柳瀬川上空でホバリング【小野恭子】



《昆虫》

- ◆ジャコウアゲハ(羽化) →8/29(月) 柳瀬川【天田眞】
- ◆エビガラスズメ(幼虫1) →9/11(日) 柳瀬川の土手【平澤英子】
- ◆ジャコウアゲハ(メスと幼虫) →9/11(日) 柳瀬川の土手でウマノスズクサに産卵中【平澤英子】
- ◆ミズカマキリ(1) →10/16(日) 柳瀬川(志木中学校前) 柳瀬川で初【小島敏文】

《は虫類》

- ◆ヒバカリ(1) →10/9(日) 西原斜面林【天田眞】

《魚類》

- ◆オオクチバス →8/30(火) 柳瀬川・東上線陸橋の富士見市側の水門【匿名】

《植物》

- ◆シマツユクサ(花) →9/11(日) 柳瀬川土手【発見：田村キミエ 写真：山崎光久】 ↑ヒバカリ(10/9 天田)



☆会員状況

11月21日現在の更新済みの会員
個人正会員 72 名
団体正会員 2 団体
賛助会員 2 名。

■カンパありがとうございました 宮本善和さん

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2005年度分、まだ
の方は同封の振替用
紙で継続をよろしく
お願いします。

★宛名シールに会費の有効期間が
書いてあります。チェックしてく
ださいね。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会
黒目川に親しむ会
グループぽんぽこ
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
志木NPOネットワーク会議
志木おやこ劇場
志木市コミュニティー協議会
市内小中学校
新河岸川水系水環境連絡会
柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

●報告

「けいおうふれあいの森」のその後

当通信で度々報告してきた、慶應志木高校寮跡地の開発で一部が保全された「けいおうふれあいの森」と「大原ぽんぽこ公園」は、近隣住民の方を中心に組織された「グループぽんぽこ」によって、月に1回の管理作業が始まっています。この夏は、道に沿った芝生の草取りを中心に作業が行われ、樹林部分は1年目であり余り作業の必要はありませんでした。

登録メンバーは当該マンションにお住まいの方々も参加し40名ほどにもなっています。10月には公園を利用してフリーマーケットが開催され大盛況でした。森は昔の面影を残しながら地域に溶け込み落ち着いた景観をつくり出し、地域住民によるまちづくり活動の場として、これからが楽しみです。（天田 眞）

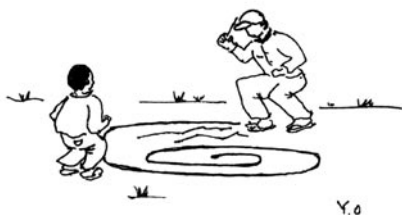
●発見 西原斜面林

こんこんと湧き出る「せど湧水」

西原斜面林にある「せど湧水」がこここのところこんこんと湧き出ています。先日、通りかかったところ写真のような立派な柵ができていました。けいおうふれあいの森もそうですが、里山の風情が楽しめる泉も林も志木では貴重な存在です。何時までも大切にしたいです。（毛利将範）



「打ッ突刺」



なぜか今朝は目覚めがいい。そうか今日は日曜で勉強はしねえんだ、
、そう言えばサツキから変な予感がしていたんで目を開けた。
すると、天井からクモが下がっているではないか。ジイーと見てい
ると手の届くところまで下がって来た。クモのケツを指でチョンと突つ
つくと、ススーイと登っていった。暫くすると、またスーッと下がっ
て来た。また突くとスーと上に登っていった。それも、よおしく見
ると、降りてきた糸を残さずに登っているのだ。不思議だな、糸を食っ
ちやうのか。

そういえば、朝クモは縁
起がいいと言っていたんで
殺しちゃあいけネエか。今
日は、何かいいこと有るの
かな。まあいいか、夕方
になれば分かるか。

早くメシ食って遊びにい
ちやべーと、まだ朝飯の支度中だというのに、俺、おひつから勝手に
よそで食べた。

オメくなに慌てているのだ、と姉ちゃんから声が。俺、シイ、と、
メシ(飯)をホウバツタ口の前で人差し指を立てた。また、オメくは
何か企んでいるな、チツタア勉強しなヨ、と、声が飛んだ。

メシを急いで口の中へ放り込み、飲み込んで家を飛び出した。
清ちゃんの家には丸い赤い外灯がニユウツと手を伸ばしたような
形で軒先にくっついていて。この辺の交番で、親父はすごく怖い。何
時も黒い服と帽子を被り、腰にピストルと紐の付いた棒をぶら下げて
いた。

俺ソツト裏口から小声で、清ちゃんいるか、と、声を掛けた。
オメく早えな。

ウン、俺仕事を言いつけられる前に逃げてきたヨ。オメく遊ぶベ
え。

駄目だ！親父が帳面に一日一枚漢字を書かないと遊んジャイケネ
て言うんだ。だから、少し待っててくれヨ。急いで書くからヨ。

ジャー見してみなヨ。何でそんなチツチエー字で書くんだヨ。貸し
てみな。

俺、帳面に「デッカイ字を書いた。一枚は一枚だんべナ。清ちゃん
は成る程ソウカ、と言ったような気がした。

オメく頭は使えようだヨ！二人は笑いながら外に出た。俺は、今

夜清ちゃんが親父に怒られるな、他人の事だからカマーねカ、まず、
遊んべ。

家の脇は藪だ。その中に一尺程の石碑が立っていた。こないだ、大人
たちの話では、昔、ニツくつした大きな塚が在った証拠だ、その場所
に建てたんで「ニツ塚交番」と呼ぶんだと、話しているのを聞いた。

俺、石を見たら確かに「ニツ塚」と書いてあった。

今では傍に深い水溜めがあつておっかなく近づけなかった。

今日は、すぐ傍でブツトシをする事にした。地面に棒切れで3尺ほど
の渦巻きを描いた。ポケットに5寸釘を持ってきたので、ジャーやんべ
。

オメエからやんなヨ。ジャーナ。と、言つて左手で渦巻きの間めがけ
て力いっぱい5寸釘を投げ地面に刺した。

何だオメーギツチヨかヨ。次は俺だ、と二人は渦巻きから外に出な
いように、そして中心に向かって交互に刺し進んだ。それも、線と線の
幅が3寸、両側の渦巻きの線に触れないように注意深くぶツ刺しながら
遊ぶので、単純そうだがなかなか難しい。良く自分の足に刺さらないも
のだと思ひながら遊んだ。

何だヨ、オメエの線真つ直ぐ引いてネエじゃネエか、直線に引くと
杵から出つ張るぞ。失敗だ！やり直しすんべ、言いながらぶツ刺した。

ダメダ！やり直しは無した。

オメー順番守れヨ、と口喧嘩しながら渦巻きの中心にドツチが早く辿
り着くかを競争した。

イヤー俺の負けだ、も一度やんべーと、足で渦巻きを消した。そして、
オメエ汚ネエからヤーメタ。

ジャー「打ッ倒し」するべーと、筆くらの木の枝を切り、先を鉛筆
のようにナイフで尖らせた。遊び方は簡単で、先に地面に刺した棒を、
次の人が投げて、倒しながら棒が地面に刺さっていれば勝ちという単純
な遊びであつた。

二人はお互いに倒し倒されている内に、オメエの棒は太いから強
いんだ、棒取り替えろよ、と、言い合いになってしまった。ますます言
い合いは激しくなり、馬鹿力バチンドンヤ、オメーの母ちゃんデンベツ！
。

何言つてヤガンダイ。デブデブ100貫デブ電車に轢かれてべつちや
んこ、と、のしり合いながら喧嘩別れとなった。

昼メシはなんだんべ、と、俺は駆け足で家に向かった。

2005年度 第3回理事会 報告

【日時】11月20日（日） 14時～15時
【場所】志木市いろは遊学館「第3研修室」
【出席】理事総数＝13名 ＜出席＝11名
（内・書面表決＝5名） 欠席＝2名＞
（敬称略・アイウエオ順）

出席：天田、伊藤、加藤、高橋、毛利、山崎
書面表決：飯塚、金子、北原、古谷、三浦、山口
ワザバー：吉田（監事）
議長：天田 眞（代表理事）
書記：伊藤 智明（事務局長）

【議題と経緯】

第1号議案：役員任期の変更について

天田代表理事から資料をもとに説明がなされ、理事からの意見聴取を行った結果、第1号議案について全会一致で了承されました。

第2号議案：定款の変更について

天田代表理事から資料をもとに説明がなされ、理事からの意見聴取を行った結果、第12条第6項案の末尾の【含まれることになってはなりません】を【含まれてはなりません】と変更することを含め、全会一致で承認されました。

以上、運営上問題が発生する可能性がある部分の修正案について議論・議決がなされました。

詳しい理事会議事録及び変更予定の定款（案）は事務局（天田代表宅）にありますので希望者は申し出てください。

また、理事会の議決を受けて12月18日（日）に下記のように定款変更のための臨時総会を予定しています。

日時：12月18日（日） 14時～15時
場所：いろは遊学館 3階「調理室」
内容：第一号議案 役員任期の変更について
第二号議案 定款の変更について

なお終了後には同会場で、手打ちうどんづくりと忘年会も予定しておりますので、奮ってご参加ください。

編集後記

◇落ち葉舞い散る季節になってきたと思ったらもう師走。今年は特に、出前水族館の出張が多かった気がします。水の中の生き物というのは何故か人の心を癒してくれるんですね。

◇ところで、実際に活動をレポートし、通信の記事を書いてくれる人、編集会議に参加できる人、そんな編集ボランティアを現在募集中です。（ふくろう）

● エコシティ志木通信
● 第40号・2005年12月1日
● 発行

● **NPO法人エコシティ志木**

● 〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

● 電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

● URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

● E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています